

## Ryouichi Okubo 大久保 亨一

釣りも仕事も人生も、縁。人は様々な出会いから、長くつきあえるものを選んでいく。

「こらあーっ油売って！」と仕事の合間釣りをしている時に地元親父に言われると、すかさず「商売だからっ！」と言い返す。すると言った本人は「はっ！」と本取られた表情を醸す。そう、私の稼業は油売り。プロパンガスと灯油販売をしております。住んでいるのは海沿いの街鹿島。海の近くで釣りをしない訳はないですね。

釣りと本業を両立していると言われますが、別に私自身は無理をしているわけではなく、自然な流れで現在のような生活になりました。今後どう展開していくか解りませんが、仕事も趣味も今していることは必然で与えられているものだと思います。

食へていくための仕事をしている。そして好きな釣りもしている。この生き方に対しては私なりの考え方があります。

人にはその場所(生まれた所や活動している所)、その人(両親や上司、友人、親戚、御嫁さん)に縁があって、今居る場所を与えられ生かされていると信じています。だから釣りも縁、仕事も縁、趣味も縁。関わっていくものには深い浅い、長い短いもあるでしょうから、その中で長く深く付き合えるものを最終的には自然に選んでいくのだと思います。



大久保氏の経営するガス販売店の看板は、ヒラメを愛する茨城のアングラの間では密かな撮影スポットになっている。(中) 大久保家に伝わる出産祝い奉納絵馬。1846年の丙午年のもの。紆余曲折を経て2009年に大久保家に戻った。自身も丙午年生まれの大久保氏は、この絵馬に「縁を感じる」と言う。(下)

私が興味を示したのは釣りだけではありません。美術版画や柔道、スキーやバドミントン…色々好きになり、やってみました。休止している今でもそれは無駄ではなく、今の自分を作り上げてきた必要不可欠なものだったと振り返ってみて思います。そして、それはまたいつかやる日が来るような気がしています。

人は良いことでも悪いことでも与え試されているのであれば、自然とそれに向かっ夢中になります。通りや終ると気が済み、悪いことであれはしみじみ正され、良し悪しを知っていく生き物なのでしょう。

今は釣り以外の趣味は音楽をしています。バンド活動で担当はドラムです。自分の音楽活動に共感して集まってきた仲間や友人の多さとその音楽活動を通してスムーズに運ぶ物事の流れを目の当たりにすると、音楽との関わりは釣り同様に天職ではないですが自分の人生に無くてはならないものだと感じます。

トレスを抱える量が多くなり、つまらなくなってしまうような気がしています。

人は常に試され生かされて行く存在だと思えます。今や個人販売の小売は量販に押されシビアな位置付けです。しかし「商い飽きてはそれまで」で本業として与えられ、使命と感じていることはやり続けて行くことが自身の成長に繋がっていると思っています。食へていくための本業は今を生き抜く上で与えられた物と思っていますので、なかなか難しいですが、その本業を「やって良かった」と、より良く自分に馴染ませスムーズに展開できるよう日々心がけております。

自分ができる範囲で趣味を楽しむ、本業が忙しければ没頭するので釣りに行きたいとはあまり考えず、やはり食へるための本業を維持することを優先します。食へさせて頂いている、趣味を持っている生活をさせて頂いているベースとなっているお客様は大変大事と思っております。家族もそう。つい自分の行動に合わせて束縛させてしまうのにも関わらず付き合ってくれていることには、とても感謝しています。面と向かつては言えませんが、ハハハ。そして趣味に没頭する時期が来れば自然と趣味の世界の中へ流れていく自分があります。

好きなことを行える所、支えてくれる人、影響や教えを与えてくれる環境や人には常に感謝をすることです。まずこの日々感謝することが食へることと活きることを両立するコツだと思えます。あっ！もちろん釣れてくれる魚も御縁！「これも特に感謝を忘れてはいけないところですよ！」